

漁業経済学会 短 信

【第51回大会開催のご案内】

漁業経済学会第 51 回大会を下記の要領で、独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所で開催します。奮ってご参加いただきたく、お願い申し上げます。

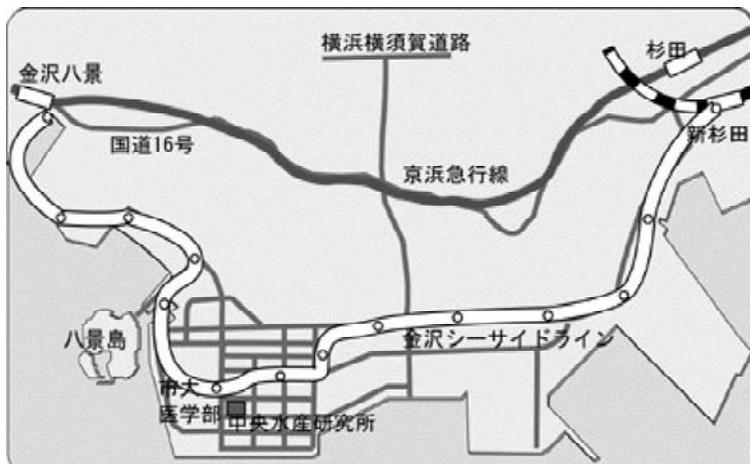
記

【会場】 中央水産研究所
神奈川県横浜市金沢区福浦2-12-4
電話 045-788-7615(代表)

【日程】 2004年5月28日(金) 一般報告(2分科会方式)・総会・懇親会
29日(土) シンポジウム

参加費・懇親会費は昨年程度を予定していますが、詳しく次号短信(大会前発行予定)でお知らせします。

【交通機関】 JR根岸線新杉田駅あるいは京浜急行金沢八景駅で金沢シーサイドラインに乗り換え、市大医学部で下車、徒歩約5分。



【一般報告の募集】

上記第 51 回大会における一般報告を下記の要領で受け付けます。

字数：報告のタイトルと要旨を含め**1,600字以内**

締切：2004年5月6日**必着**

形式：メールを利用する場合は、ワード、一太郎、テキストファイルを添付で、**obaba@s.kaiyodai.ac.jp** まで。

郵送の場合はフロッピーディスク(ワード、一太郎、テキスト形式のいずれか)、またはそのまま印刷原稿に使用できるようにプリントアウト(B5 サイズ1枚)した用紙を事務局まで。

機材：メール送付あるいは郵送時に、報告時に使用したい機材(OHP、スライド、プロジェクターなど)の希望がありましたらお知らせください。

資料：報告時にレジュメ等を配布される場合は、100部を当日会場受付までご持参ください。事前に送付したい場合は、大会3日前までに事務局宛に送付ください。当日事務局ではコピーなどのサービスはできませんのでご注意ください。

備考：後掲のシンポテーマとの関連で、一般報告の午後の部の一分科会を漁協問題を共通論題とするセッションとして構成したいと考えていますので、奮ってご応募ください。

事務局：〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7 東京海洋大学内 漁業経済学会 馬場治
(電話)03-5463-0564、(FAX)03-5463-0579、
(e-mail)obaba@s.kaiyodai.ac.jp

【第51回大会シンポジウムのご案内】

「漁協問題」をシンポジウム・テーマに

—第51回大会(於:中央水産研究所)を準備中—

代表理事 廣 吉 勝 治

自覚のないままに理事代表を受けたことがわざわざしてシンポに関する準備が立ち後れました。事務局の馬場さんの指示でようやく昨年8月1日の常任理事会で発議し色々な意見を戴き、また夏に実施した理事アンケートの実施などを通じ、11月8日の常任理事会・シンポ企画会議において標記テーマでシンポをやることに決定し、コーディネーターは漁協問題においても論陣を張られる加瀬さん(東大)にお願いした。その後、2回の企画会議でシンポの論点や演者について検討しましたが、この中味についてはすべて加瀬さんにお任せするとして、ここではテーマ選択の背景と方向について個人的所見を述べさせて戴きたい。第1に、協同組合は90年代における金融制度改革、金融機関のビッグ・バン対応等、金融資本再編の渦に巻き込まれつつ翻弄され続けているが、他方で冷静さを欠いた

対応が漁協系統においても見られる。即ち、地区漁協の信用事業統合からはじまる「組織強化」並びに合併方策の展開は、一県一漁協制の実現及び販売市場統合等、大型化と規模拡張の達成という方向が政府と系統上部の漁協政策の中心を占め達成されていく段階にあり、今日が戦後漁協史において一時代を画する意義を有すると認識すべきではないか。第2に、こうした状況において、漁協合併、事業統合に関しては是非論を含め様々な改革論議がなされるようになった。漁協再編論議に巻き込まれつつ、系統ニーズ・官庁ニーズ物等の調査研究をこなす当会員も少なくない。今日の漁協問題は、組合員の高齢化と組合員数の減少、漁協事業の縮減、事業内容の変貌など、合併是非論にとどまらない本質的な論議をすべき時を迎えている。第3に、問題の中心は「地区漁協」である。地区漁協に限定し、その現状をひとまず事業と経営を中心として検討する。この観点から漁協の戦後史分析をも立論の中に入れ地区漁協の今日の位置づけと存在意義を明らかにし、現時点の漁協政策を批判的に検証したい。

ところで、この間、学会事務局のある旧東京水産大学は商船大と合併して「東京海洋大学」に変身しました。旧国立大学は4月1日法人化を夾んで大騒動です。歴史的意義が乏しいかも知れない学内行政に貴重な時を消耗している会員も少なくないと思われませんが、シンポに向けて十分な準備が出来るか気になります。会場となる中央水研の方々にはご苦労をおかけしますが、大会初日の一般報告の部では漁協に関係する報告については共通論題のセッションを提供できるような工夫をしたいを思いますので、会員諸氏のご協力をお願いします。皆さんの積極的な準備で有意義な大会となるよう期待します。

「漁協経営問題の現状と展望」

コーディネーター 加瀬和俊

(1) はじめに

2004年度5月に開催される漁業経済学会の年次大会では、そのシンポジウムのテーマとして「漁協経営問題」が取り上げられることになった。漁協の経営が厳しい状況にあり、それに対する組織面・事業面での再編努力が続けられている現状において、漁協経営の実態、諸施策の意義と効果等について多面的に議論することがテーマの趣旨である。

漁協経営問題の現状とあるべき方向については、漁業経営者、漁協役職員を含む各種漁業団体関係者、行政関係者、漁業経済研究者等、学会関係者のそれぞれが、固有の見解を持っておられると推察される。したがってシンポジウムは報告者の報告に長時間を費やすよりも、報告者は論点を絞った報告を行い、それを呼び水として大会参加者全体で活発な議論を展開する方式が期待される。そのため、各報告者をお願いしたい問題提起の内容と各報告の相互関係について、あらかじめ共通の理解を得ておきたい。この小文は、そのためのたたき台であり、批判・提案を得て修正するものである。

なお、本シンポジウムで対象とする「漁協」は主として地区漁協を念頭に於いており、業種別漁協については議論に必要な範囲で触れるだけになると思われる。しかし、今日の地区漁協の組織・事業の再編が系統上部団体との関係の再編をともなっていることから判断して、単位漁協経営にとっての県漁連・全漁連、信漁連・農林中金の役割については可

能な限り言及するようにしたい。

また、漁協事業を論じる場合、経済事業とは区別される漁場管理・漁業経営指導等の役割が重要であることは明らかであるが、今回のシンポジウムでは、漁協の経営問題に議論を集約させる意味から、組合員の漁業経営に対する方向付け機能については、最小限必要な限りで触れることにとどめたい。

(2) 報告の構成と論点

A: 報告は冒頭にコーディネーターの趣旨説明(論点提起)を置き、続けて以下の4報告を行う。

論点提起——漁協経営問題をめぐる諸論点(コーディネーター・東京大学・加瀬和俊)

第一報告: 漁協財務の現状(東京海洋大学・馬場治)

第二報告: 漁協合併にともなう事業再編の経験(檜山漁協・浜野節夫)

第三報告: 漁協販売事業の再構築(魚価安定基金・佃 朋紀)

第四報告: 零細漁協の事業と経営(香川県庁・濱本俊策)

B: 各報告には以下のような内容が期待される。

第一報告: 漁協の財務分析を通して、漁協経営の問題点を明らかにし、事業・組織の再編の効果について中間的に評価する。

第二報告: 檜山漁協の合併の経過・方式・問題点を紹介し、合併にともなう信用事業・販売事業・職員管理等の変化等について論評する。

第三報告: 漁協経営の観点に立って販売事業の問題点・課題を明らかにするとともに、水産庁による産地市場統合方針と、各地における産地市場統合の実態、背景、効果等について論評する。

第四報告: 零細漁協の事業と経営の特徴点を明らかにした上で、漁業者が漁協によって提供されない諸サービスをどのように調達しているのか(それがどのような不利をもたらしているか)を論じ、それを克服する方向性・事例について紹介する。また零細漁協の残存が、系統上部団体にとってはどのような問題となっているのかについても言及する。

C: 報告の相互関係

4報告の相互関係は以下のように想定される。

まず、漁協経営の現状、問題点の全体的状況は、第一報告が担当する。漁協経営の打開策として追求されている漁協合併・信用事業統合・市場統合等の進展状況、漁協財務に現れている限りでのその評価もここでなされる。

第二報告はこれを受けて、大型合併を成し遂げた檜山漁協の事例にそくして、合併前の各漁協の経営問題、合併過程で解決を迫られた経営関連の問題点とその解決方法、合併効果の評価等について解説する。第一報告が抽象的・全体論であるのに対して、第二報告は個別的・具体論となり、両報告で全体状況が明らかにされることになる。

第一報告、第二報告の中で漁協再編の中心施策となっている合併・信用事業統合については論じられるが、産地市場統合についてはその事例が多くないこともあり、必ずしも十

分には論じられないと思われる。第三報告がこの論点を担当し、産地市場統合が経営再編策として意味を持つとする政策論理の背景、施策の内容、事例の評価等を行う。

第一報告から第三報告までの扱う漁協の事業・組織の再編は、経営難が表面化している中堅規模以上の漁協が主な対象となる。零細漁協は経済事業をほとんど実施していないだけに経営難として現れるだけの経費を投入していないから、再編の必要性が弱いからである。しかしながら、漁協数としては零細漁協が最も多く、それらは組織再編の中で無視できない重みを持っている。第四報告はこうした零細漁協を対象として、それが現在の組織・事業再編の動向の中でどのような動き方をしているのか、また行政・系統上部団体のそれらへの働きかけのあり方等について検討する。零細漁協の組合員は、所属漁協が実施していない事業サービスをどのように調達しているのか(系統上部団体か、隣接漁協か、商人系統か)、あるいは調達できずに漁業経営も沈滞しているのか等についても触れられる。

【第50回漁業経済学会大会報告】

<大会プログラム>

漁業経済学会第50回大会は下記の要領で行われました。

日時：5月31日(土) 一般報告 9:05～18:15

懇親会 18:30～20:30

6月1日(日) シンポジウム 9:00～17:00

会場：東京水産大学

(一般報告)

第1会場

第2会場

(シンポジウム)

テーマ：水産物の流通と安全・安心

—消費者に軸足を置いた流通システムの構築について—

①解題：水産物の流通と安全・安心

多屋勝雄(東京水産大学)

②水産物の安全と消費者

山下東子(明海大学)

③水産物の HACCP 対応

高鳥直樹(社団法人 大日本水産会)

④ノルウェーでの水産物安全対策

丹羽弘吉((有)バーテックス代表取

締役・駐日ノルウェー大使館顧問)

⑤宮城県産カキのトレーサビリティシステム

酒井 純(社団法人 食品需給研究

センター)

総合司会：田坂行男(中央水産研究所)・濱田英嗣(下関市立大学)

＜総会議事＞

1. 2002 年度事業報告

(1) 渉外関係

- ・日本農学会
- ・水産学研連

(2) 組織関係

2003 年 5 月 29 日現在の会員現勢

個人会員：301 名（一般 235 名 学生 65 名 団体 1 名）

賛助会員：4 名（農林中央金庫 海外漁業協力財団 漁済連 共水連）

寄付団体：東京水産振興会（会員外）

(3) 学会誌編集関係

(4) 短信関係

(5) シンポ企画委員会

(6) HP 委員会

(7) 50 周年記念事業委員会

記念事業として、①『漁業経済研究の成果と展望』（仮）を出版することとし、
執筆者と担当項目を提案した。

(8) 組織委員会

(9) その他

JABB

2. 2002 年度決算報告および監査報告（後掲）

3. 2003 年度事業計画

(1) 学会誌編集計画について

(2) 短信編集計画

(3) 次期大会開催地について

(4) 50 周年記念出版編集委員会

(5) 組織委員会

(6) その他

IIFET2004JAPAN について

4. 2003 年度予算案（後掲）

5. 学会賞選考委員会報告

多屋勝雄選考委員長より以下のような報告があった。

学会賞：日高 健（近畿大学） 「都市と漁業」

濱田英嗣（下関市立大学） 「ブリ類養殖の産業組織」

佐野雅昭（鹿児島大学） 「サケの世界市場」

奨励賞：常 清秀（三重大学）

鳥居亨司

6. 学会賞選考規程の改正について

授賞件数を従来規程では年2件以内としてあったが、これに「原則として」を付け加えることとした。

7. 学会賞選考委員の改選について

2003年5月で任期を迎える4名(長谷川健二、宮澤晴彦、榎彰徳、婁小波)に代わる委員は、全国理事会での選挙の結果、片岡千賀之(14票)、加瀬和俊(13票)、小野征一郎(11票)、山尾政博(10票)が選出され、三輪千年(9票)を次点とした。しかし、その後の代表理事の改選において、留任の選考委員であった廣吉勝治が代表理事(選考委員長となる)に選出されたため、次点の三輪千年が廣吉勝治に代わる残りの期間の選考委員として選出された。

その結果、選考委員は

濱田英嗣、三輪千年：任期2004年5月まで

片岡千賀之、加瀬和俊、小野征一郎、山尾政博：任期2005年5月まで

廣吉勝治：代表理事として

8. 理事の改選について

9. 代表理事の改選について

10. その他

【常任理事会報告】

<2003年度第1回常任理事会>

日時：2003年8月1日

協議：

- ・学会事務局体制の確認：廣吉勝治(代表理事)、馬場治・濱田武士(総務)、工藤貴史(会計)、婁小波(編集)
- ・シンポジウム企画案を検討し、学会員からテーマに関する意見を聞くこととした。テーマについては常任理事会等で議論して、報告者がある程度絞ってから報告者を交えて企画の詰めを行う。

<2003年度第2回常任理事会>

日時：2003年12月27日

協議：

- ・次期学会の日程と運営方式を協議した。
- ・シンポテーマを漁協問題とすることとし、その内容について議論し、報告者の候補をあげて、交渉に望むことを決定した。

2002年度決算報告

1.一般会計の部

①収入の部

大科目	小科目	予算	決算	決算-予算
会費	小計)	1,650,000	2,376,000	726,000
	一般会員		1,856,000	
	学生会員		120,000	
	賛助会員		400,000	
会誌売上	小計)	300,000	301,500	1,500
	事務センター扱		262,500	
	事務局扱い		39,000	
寄付金		100,000	100,000	0
大会収入	小計)	500,000	372,500	-127,500
	参加費		184,000	
	懇親会費		188,000	
	要旨集		500	
雑収入	小計)	600	680	80
	利息		50	
	その他		630	
当期収入合計		2,550,600	3,150,680	600,080
前期繰越金		1,595,003	1,595,003	
収入合計		4,145,603	4,745,683	600,080

②支出の部

大科目	小科目	予算	決算	予算-決算
会誌等印刷費	小計)	1,800,000	1,457,767	342,233
	学会誌		1,443,645	
	短信		14,122	
通信発送費		250,000	126,325	123,675
事務局費		100,000	99,721	279
会議費	小計)	300,000	121,890	178,110
	50周年 旅費)		121,890	
大会経費	小計)	500,000	516,116	-16,116
	教室使用料		19,894	
	要旨集印刷費		76,177	
	バイト代		104,000	
	懇親会費		231,000	
	シンポ等食費		17,724	
	学会賞等		40,000	
	その他		27,321	
負担金		45,000	44,820	180
雑費		10,000	0	
当期支出合計		3,005,000	2,366,639	638,361
繰越金		1,140,603	2,379,044	-1,238,441
支出合計		4,145,603	4,745,683	-600,080

2.50周年記念出版特別会計の部

①収入の部

科目	予算	決算	決算-予算
特別会計からの繰入金	1,000,000	1,000,000	0
収入合計	1,000,000	1,000,000	0

②支出の部

科目	予算	決算	予算-決算
50周年記念出版印刷費	1,000,000	0	1,000,000
当期支出合計	1,000,000	0	1,000,000
繰越金	0	1,000,000	-1,000,000
支出合計	1,000,000	1,000,000	0

3.財産目録(一般会計)

①一般会計の部

種類	預入先	
郵便貯金	郵便局	465,121
普通貯金	東京三菱銀行	872,318
振替貯金	郵便局	959,550
現金		82,055
合計		2,379,044

②特別会計の部

種類	預入先	金額	摘要
定額貯金	郵便局	75,000	
現金		500	
定額貯金	郵便局	1,000,000	50周年記念出版印
合計		1,075,500	

2003年度予算(2003.4?2004.3)

1.一般会計の部

①収入の部

科目	2003年度	2002年度	増減
会費	1,650,000	1,650,000	0
会誌売上	300,000	300,000	0
寄付金	100,000	100,000	0
大会収入	500,000	500,000	0
雑収入	600	600	0
小計	2,550,600	2,550,600	0
前期繰越金	2,379,044	1,595,003	784,041
合計	4,929,644	4,145,603	784,041

増減:予算額-前年度予算額

②支出の部

科目	2003年度	2002年度	増減
会誌等印刷費	2,000,000	1,800,000	200,000
通信発送費	200,000	250,000	-50,000
事務局費	100,000	100,000	0
会議費	250,000	300,000	-50,000
大会経費	500,000	500,000	0
負担金	45,000	45,000	0
雑費	10,000	10,000	0
当期支出合計	3,105,000	3,005,000	100,000
繰越金	1,824,644	1,140,603	684,041
合計	4,929,644	4,145,603	784,041

増減:予算額-前年度予算額

2.50周年記念出版特別会計の部

①収入の部

科目	2003年度	2002年度	増減
特別会計からの繰入金	1,000,000	1,000,000	0
収入合計	1,000,000	1,000,000	0

増減:予算額-前年度予算額

②支出の部

科目	2003年度	2002年度	増減
50周年記念出版印刷費	1,000,000	1,000,000	0
当期支出合計	1,000,000	1,000,000	0
繰越金	0	0	0
支出合計	1,000,000	1,000,000	0

増減:予算額-前年度予算額

学会短信

No. 97

2003. 2. 12

漁業経済学会事務局

〒 108-8477 東京都港区港南 4-5-7

東京水産大学内

(tel&fax) 03-5463-0572

e-mail lou@tokyo-u-fish.ac.jp